

---

# 姉弟の馬鹿げた会話の続き

やんぬかなるかな

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

姉弟の馬鹿げた会話の続き

### 【Nコード】

N2443C

### 【作者名】

やんぬかなるかな

### 【あらすじ】

そうです。『姉弟の馬鹿げた会話』の第2段です。今回はあんまり期待しないで下さい。それでも見て下さる方々に感謝します。この物語はフィクションです。

(前書き)

また、懲りずに書いてしまいました。

『これって小説っていえるのか』っていう質問は無しの方向で。  
先に謝っておきます。

(色々と) すいません。

「姉さん、部屋に籠もって何してんの？」

「小説書いてんの」

「……姉さんが？何で？」

「私、前に小説書いたことがあったんだけどね、それが結構良い評価もらったのよ」

「で、調子に乗って第2段って訳だ」

「そーゆう訳よ」

「……否定しないんだ、調子に乗ってるってこと」

「だって事実だもん」

「……あつ、そうなんですか」

「そーよ」

「ところで、どんなのを書く予定なの？」

「ありきたりだけど、殺し屋の話でも書いじつかとおもってるんだけど」

「殺し屋なんて姉さんにピツタンだね」

「弟ヨ、選べ。首ヲ吊ルカ、飛ビ降リルカ」

「・・・ジョーダンです。生意気言つてすみません」

「許す」

「でも、殺し屋の話つてありきたりなの？」

「ええ、そうね。殺し屋と言うより戦闘系には大体ありきたりな展開があるわ」

「へー、例えば？」

「主人公つて仲間を殺されると復讐を誓うけど、敵が復讐しにくると『そんなことやつたつて誰も戻つてこない』的なセリフ言うよね」

「まあ、ときどきそんな作品もあるような、無いような・・・」

「後、主人公の肉体を賛美するときは、比較としてボディビルダーが馬鹿にされるわ」

「それは・・・有るのか？」

「生と死を賭けた勝負、つて時は大体荒廃した場所で行われるの」

「それはよく漫画にあるよね」

「でも、一番あるのは日常コメディ小説が、いつのまにか非日常バトルコメディ小説に成り代わってしまい、大抵そうゆう小説は魔法とか超能力の闘いになるのよね」

「……おい、姉さん？」

「いいのかしら、そんな急展開、つてかそれ既定路線だったの？つて聞きたくなるような作品もちらほら」

「……ちょっと姉さん？」

「『実は主人公はくだった！』つていきなり言われてもねえ。最初の頃主人公のキャラはどこに行ったのかしら」

「オイ、姉ヨ、調子二乗リスギダ。少シ八黙ツテ貰オウカ」

「……はい、スイマセン。調子に乗りすぎました」

「姉さんが書いてる殺し屋の武器は何？」

「バレットM99、よ」

「……って言われてもサッパリ何のことだが分からないよ、姉さん」

「M99はね、915メートルの距離を命中させてギネスにも認定された、世界最高級のライフルよ」

「……素直にライフルって言えない？」

「バレット99と他のライフルは違うのよ」

「どこらへんが？」

「命中距離、威力、命中率……どれをとっても99に勝てるライフルはこの世にないわ!!」

「……ふーん」

「何その感想。感動しなさいよ」

「ちよつとだけ感動したよ」

「何に？」

「姉さんが武器を語っているときの姿が輝いて見えたよ」

「……それは、私が武器オタクとでも言いたいのかな、弟？」

「えっ、姉さん、武器オタクじゃないの？」

「なぜ私が武器オタクといえるのかしら？」

「ライフルの固有名詞が言えて、さらにそのライフルの特徴が言えて、その上『このライフルは他のライフルとは違う』とまで言い切った人が武器オタクではないと？」

「……そうかもしれないけど、オタクは言い過ぎだわ。他の人よりちよつと詳しいだけよ」

「確かにオタクは言い過ぎだったかな」

「分かってくれて、嬉しいわ」

「でも、小説に出てくる殺し屋の武器って普通は刀じゃない？なんで姉さんはライフルなの？」

「現実的に刀って戦闘中に刃こぼれとかするから殺し屋に向かないのよね」

「そうなんだ」

「刃こぼれしなくなつて斬つたときに人の油が付くから、2、3回斬つただけで使いものにならなくなるの」

「じゃあ、よく時代劇にある戦闘シーンは？」

「あんなの大嘘よ！刀一つであんな敵のなか突っ込むのは自殺行為よ。宮本武蔵だつて戦闘の時は予備の刀を持ってたんだって」

「へえー」

「だから私は刀を使いたくないの。リアルそうに見えてまったくリアルじゃないもの」

「刀での戦闘シーンを文にできないんじゃないか？」

「・・・っ、何をい、言ってるのかしら、私が書けないとでも？」

「そんな訳ないか」

「そんな訳無いに決まってるじゃない」

「でも良く分かったよ」

「何が？」

「ライフルと刀についてこれだけ語れる姉さんは武器オタクだ、って事」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「終わり方どうしようかなあ〜」

「姉さん、もう書き終えたの？」

「まあね、大体書いてたし。後はエピソードだけよ」

「エピソードなんて、皆幸せに暮らしました、じゃ駄目なの？」

「最近の作品はバッドエンドの物も多いから一概には言えないのよ」

「大抵のバッドエンドって主人公死ぬよね」

「だってバッドエンドだもん。当たり前じゃん」

「じゃあ、姉さんの作品の主人公は死ぬの？」

「私はバッドエンドは嫌いだから死なないわ」

「なら、“めでたし”で良いんじゃない？」

「でも、それだと前の作品と同じような終わり方になるのよね」

「時々いるよね、終わり方が単調な人って」

「他にパターンが無いのカヨ、って言いたくなるわ」

「本当にね。でもそんなことって良いの？また敵増やすよ」

「大丈夫よ、弟。もう多分見ている人いないから。まだ全部話してないけど・・・終わっちゃう？」

「えっ、まだ全部話してないの？十分喋ってたのに」

姉弟の馬鹿げた会話の続き

「まだ腐女子のくだりをしてないわ」

「それ、どれくらいかかる？」

「話にしてみれば5分間。文字にすれば500字くらいかしら？」

「……………」

「どうした、弟よ。いきなり黙って」

「姉さん、僕はとんでも無いことに気付いてしまったよ」

「何かしら？教えてほしいわ」

「このままの流れだと、確実に前回と展開被るよね」

「……………ねえ、弟？」

「何？」

「今のが・・・オチになるはずなんだが」

「これが2回目のジnkクスと言うものだよ、姉さん。いや、この作者の場合は実力か」

・・・

「目指せ、前回越え」

「うん、それ無理」

(後書き)

お疲れ様でした。

さて、今回後書きまで見て下さる仏様は、どれくらいいらっしやる  
ことでしょうか。

3人称って難しいと思う、今日この頃でございます。

さて、ネタがない、期末テストが有る、など悪条件の中の今作品・  
・前回のほうが断然よかつたなあ。

次は何を書こうかな？なんてネタも無いのに考えてます。

だれかネタを・・・

では、皆さんご元気で

SEE YOU

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2443c/>

---

姉弟の馬鹿げた会話の続き

2009年3月24日09時44分発行